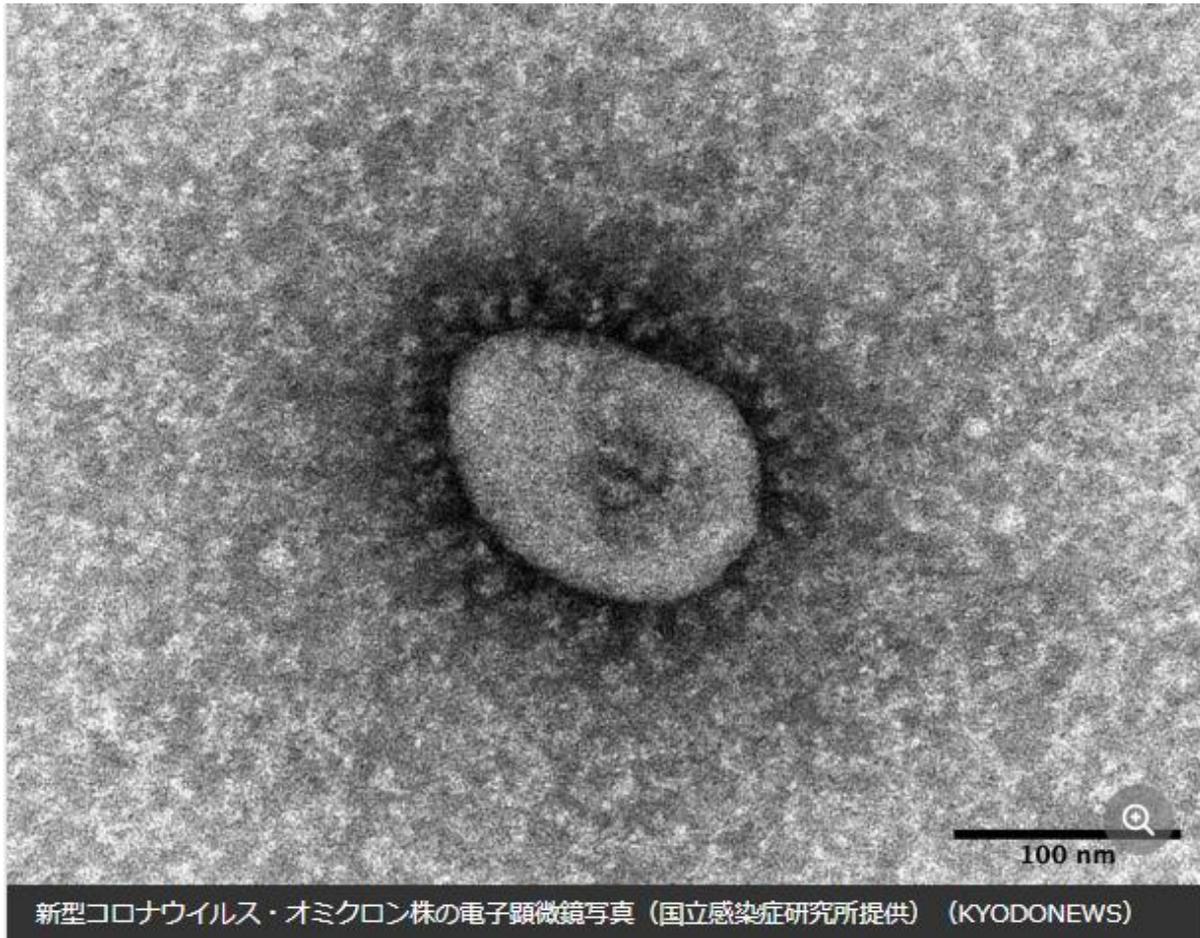


コロナ死者、年間3万2千人 5類移行後、インフルの15倍

2024年10月25日共同通信



<https://news.yahoo.co.jp/articles/lef4009e50f75516112059455fcf0bd01fd0381d>

新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類となった2023年5月～24年4月の1年間で、**死者数が計3万2576人**に上ったことが24日、厚生労働省の人口動態統計で分かった。季節性インフルエンザの約15倍と格段に多く、大部分を高齢者が占める。政府は重症化リスクの低下を理由に新型コロナの類型を引き下げ、日常生活の制約はほぼなくなったが、今も多くの人が脅威にさらされている。

例年冬にかけて感染者が増える傾向にある。東北大の押谷仁教授（感染症疫学）は「高齢化社会の日本で被害を減らすために何ができるのかを一人一人が考えないといけない」と訴えている。

人口動態統計のうち、確定数（23年5～12月）と、確定前の概数（24年1～4月）に計上された新型コロナの死者数を集計。**その結果、3万2576人となり、65歳以上が約97%だった。同時期のインフルエンザの死者数は2244人。新型コロナは、ウイルスが次々と変異して高い感染力を持つ上、病原性はあまり低下せず、基礎疾患のある高齢者が感染して亡くなっているとみられる。**

コロナの公費支援再開、検討せず 福岡厚労相、4月に廃止

2024年10月25日共同通信

福岡資麿厚生労働相は25日の閣議後記者会見で、4月に廃止した新型コロナウイルス感染者の治療薬や入院費に対する公費支援について「扱いを変えることは検討していない」と

述べ、再開に否定的な見解を示した。

新型コロナの感染症法上の位置付けが「5類」となった2023年5月から1年間の死者数は、計3万2576人に上ったことが厚労省の人口動態統計で判明。22年の4万7638人、23年の3万8086人に比べて減少傾向ではあるが、依然高い水準となっている。

福岡厚労相は「冬に向けて感染者の増加が見込まれ、せきエチケットやワクチン接種の検討の呼びかけを進めていく」とした。